

（仮称）第４期県立高校将来構想答申中間案に対するパブリックコメント及び御意見に対する県立高等学校将来構想審議会の考え方

No.	御意見の内容 (固有名詞等の修正を除き、原則として御意見の通りに記載してあります。)	審議会の考え方	章	中間案
	○ 基本理念			
1	学校の授業に民間企業を参加させる方針の様が、高校の学習が、個人を伸ばす物でなく、企業の為の物に変わってしまわないか心配だ。 社会の変遷や科学の進歩で、高校で学ぶべき内容は増え続けているのに、未だに高校教育は義務化されず、年次も中・高で三年ずつのまま。 本当は一貫で 20歳まで学べるぐらいが理想のはず、成年年齢の引下げに加え、企業が必要とする授業内容だけを優先されたのでは、それ以外の人として必要な教養が、削られてしまうのではないか。企業教育と学校教育はきちんと分け、学校を企業の為に仕立てた若者を作る場にはしてほしくない。	これからの高校教育では、デジタル技術等を有効に活用し、学校、学科の枠を越えた連携や、地域、市町村、研究機関、海外の学校などの外部機関など、多様な外部資源と連携した教育環境が重要であると考えております。また、卒業後の進路を現実的に考えていく上では、専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備することが必要であり、そのためには、地域の企業等と連携しながら、実社会と結び付いた学習機会を創出し、生徒の選択肢を増やす取組を行うことが肝要であると考えておりますので、御意見として伺います。	第 3 章	1 基本理念 生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自分の人生を舵取りすることができる力を育むことが必要であり、ふるさと宮城の理解を深めながら、異なる価値観や文化を尊重し、的確な情報活用と課題解決を通じて新たな価値を創造する資質・能力を持つ生徒を育成していきます。 (１) 高校教育の創造的再構築 ○ これにより、生徒が学びに対してより高い意欲を持ち、将来の社会で自立して活躍するための力を育む、生徒を主語にした高校教育を実現します。 2 基本方針 (５) 地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備します。 ○ 地域の企業や関係団体、大学、市町村等と連携しながら、外部人材や施設・設備を活用したフィールドワークや地域課題をテーマにした探究学習など、地域に根ざした特色ある資源や産業、文化などを教育活動に取り入れることで、専門性や応用力を高める実践的な教育環境を整え、知識の習得にとどまらない、実社会と結び付いた学習機会を創出します。
	○ 県立高校教育の質の向上の方向性－多様なニーズに対応した教育の推進			
2	「グローバル化」を掲げて、国際社会に通用する子供を… という事だが、その割に、日本人の子供の事しか考えていない様に見える。 多くの外国人労働者は出稼ぎの様な形で帰る事を前提にされていて、子供と一緒に日本での暮らしをスタートできる環境が足りない。 これでは本当の国際化とは言えないと思う。 既に国際学校は幾つか有る様だが、アジア圏には 対応が不足している。 大崎日本語学校の様な取り組みを一步進め、海外から来た生徒がスムーズに学習を続けられる環境や制度を、(小中学校も含めて) 整える必要があるのではないか。大人の都合でなく、生徒の「教育を受ける権利」を第一に、将来設計して頂きたい。	御指摘のあった海外から来た生徒への学習支援を含め、生徒の様々な背景を踏まえ、それぞれに応じた学習方法の提供を推進します。 また、基本理念に記載のとおり、生徒を主語にした高校教育の実現を目指してまいります。御意見につきましては、今後の議論の参考とさせていただきます。	第 4 章	1 県立高校教育の質の向上の方向性 (３) 多様なニーズに対応した教育の推進 ○ 生徒一人一人の学習状況や興味・関心、進路希望などの教育的ニーズを的確に把握し、それに応じた最適な学習環境を整備するため、個々の能力や特性に対応した教育課程を編成します。これにより、実社会で必要な知識や技能の習得を図り、将来の社会的自立に必要な判断力・表現力・協働能力などの資質・能力を育みます。 ○ 生徒が持つ個性や能力などの様々な背景を踏まえ、それぞれに応じた学習方法の提供など、互いを尊重し協働できる環境を整備し、共生社会の実現に向けた教育活動を推進します。
	○ 県立高校教育の質の向上の方向性－教育ＤＸの推進			
3	A I 活用を盛り込んでるが、今起きているA I の問題を、全く考えていないのではないかと…。 A I が酷い環境負荷を伴う技術で、温暖化を促進する事、A I の電力確保の為に、国や企業が原発を増設しようとしている事。 高校の生徒は、納得した上で使うのか? (思想・信条の自由を侵害する恐れ)また海外の事例では、A I を使った学習で、生徒自身の能力は反対に落ちるという結果も出ている。 ネット上の嘘や差別的な考えまで拾ってしまうA I は、人格に悪影響を与える危険性も指摘される。 考える力を養わなければいけない 学校教育に、A I を「先生」の様に使うのは、良い事の様には 思えない。	生成A I などに代表されるデジタル技術の進展を踏まえ、必要な情報を、その真偽も含めて見極める力と、目的に応じて適切に活用する力を相互に高めながら、課題解決や探究活動等を通して、的確な情報活用と課題解決により、新たな価値を創造する資質・能力の育成につながるよう、学習内容や指導方法の工夫を含めた教育環境の整備を進めていく必要があると考えます。御意見として伺います。	第 4 章	1 県立高校教育の質の向上の方向性 (４) 教育ＤＸの推進 ○ 生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、ＩＣＴやA I 等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的なリアルな学びを組み合わせ、知識と社会とのつながりを意識しながら生徒が主体的に学びに取り組める環境を整えます。 ○ 人口減少・少子化が進展する中で、生徒一人一人にとって魅力ある教育環境づくりを推進するため、オンラインの効果的な活用などデジタル化により、学校の枠を越えた協働的な学びや海外の高校生との交流など、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ります。
4	宮城県の公立高校はＩＣＴ化が他県に比べてかなり遅れているので、もっととどしどしやるべき。また特に年寄りの先生方にもＩＣＴが使えるような講習会を実施するなどして、普及させて欲しい。仙台市内の一部の高校では、なかなかＩＣＴ化を取り入れた授業が進んでいるが、逆に他の一部の高校では、旧態依然の授業をしている先生が多い印象です。	現状でも、教育ＤＸを推進しているところですが、今後、さらにＩＣＴやA I 等のデジタル技術を活用した学びと、リアルな学びを組み合わせ、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図っていく必要があると考えます。 また、デジタル技術の活用による教育手法の変化や多様化する生徒の教育的ニーズに応えるため、研修体制を充実させるなど教職員が安心して教育現場で活用できるよう支援してまいります。御意見につきましては、今後の議論の参考とさせていただきます。	第 4 章	1 県立高校教育の質の向上の方向性 (４) 教育ＤＸの推進 ○ 生徒一人一人の興味・関心や習熟度に応じ、ＩＣＴやA I 等のデジタル技術を活用した学びと、他者との関わりを通じて思考を深める対話的・体験的なリアルな学びを組み合わせ、知識と社会とのつながりを意識しながら生徒が主体的に学びに取り組める環境を整えます。 ○ 人口減少・少子化が進展する中で、生徒一人一人にとって魅力ある教育環境づくりを推進するため、オンラインの効果的な活用などデジタル化により、学校の枠を越えた協働的な学びや海外の高校生との交流など、時間や場所にとらわれない柔軟な学習機会を創出しながら、教育内容の充実と授業運営等の効率化を図ります。
	○ 時代のニーズに対応した高校の魅力化－普通科系の学び			
5	高校教育費無償化が実施され、県立高校の定員割れ等、課題も多い事からの見直し案だと思います。 他県、私立高校などからの差別化として、英語授業で国際感覚を身に付ける学科を何校かに設けては如何でしょうか？ 全校には無理でしょうが、アメリカンスクールの様に、日常会話から授業まで、登校から下校まで英語で学ぶクラスがあったら良いと感じました。単独では無理であれば、観光、ビジネス、防災、電子等の専攻科目に取り入れても良いと思います。 自身の英語力の無さから、英語授業が必要だと感じています。	時代のニーズに対応した県立高校の魅力化やグローバル化の進展に応じた国際的な視野や語学力の充実が必要と認識しております。 具体的な運用については、今後の実施計画において検討します。御意見につきましては、今後の議論の参考とさせていただきます。	第 4 章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (１) 普通科系の学び ② 普通科の改革の推進により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方にとらわれない学びを創出し、地域や学校の特色に応じた魅力化を図ります。 ○ 地域や社会のニーズを的確にとらえ、特色ある分野をはじめ、企業や商工会、大学等と連携した学びを展開します。また、デジタル技術や英語等の語学力などの社会的ニーズにも対応したカリキュラムの導入などによる、実社会で生きる知識・技能を身に付ける実践的な学びの充実を図ります。

No.	御意見の内容 (固有名詞等の修正を除き、原則として御意見の通りに記載してあります。)	審議会の考え方	章	中間案
	○ 多様な学びの在り方			
6	不登校児が全盛期になってしまってるので、新しい試みで i d e a l スクールを始めるのはいいけど、入試制度も点数や内申にこだわらず、人柄や意欲、シングルマザーの子も多いのでスクールバスなんかも検討して通いやすくするとか、不登校が常態化することに鑑み、Z O O M などのオンライン授業なんかも検討して、通わないで済むような施策も検討して欲しい。	i d e a l スクールにおいても、通信制高校との効率的な併修が可能となる仕組みとするほか、入学者選抜の方法も新たに「i d e a l 選抜」という、高校生活への意欲を重視し、多面的に生徒の実態を把握することができるような選抜方法も取り入れることを予定しているところです。御意見につきましては、今後の議論の参考とさせていただきます。	第 4 章	1 県立高校教育の質の向上の方向性 (4) 教育 D X の推進 ○ 登校に不安を抱えている生徒や、病気等により長期療養のため登校できない生徒に対しては、生徒・保護者の意向も踏まえた上で、家庭や病室と教室をオンラインでつなぎリアルタイムで授業を受けることや、オンデマンド配信を活用して学習を進めることなど、デジタル技術を活用した学習支援に引き続き取り組みます。 3 多様な学びの在り方 (2) 定時制・通信制の在り方 ○ 通信制高校（課程）のニーズを踏まえながら、スクーリング拠点や通信制高校の増設を行うことで、場所や時間にとらわれず学べる学習機会の充実を図り、全ての生徒が安心して学びを継続できる環境を整備します。
	○ 多様な学びの在り方－idealスクール			
7	i d e a l スクール という取り組みは 期待したいが、同時に、なぜ既存の高校が拒絶されてしまうのか、という事も、考えてほしい。 i d e a l スクールの成果を、他の高校にも反映する仕組みが欲しい。	様々な背景を持つ生徒や、多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる新たなタイプの学校「i d e a l スクール」を令和 9 年度に開校します。ここでは、チューター制の導入や外部人材との連携によりサポート体制を構築し、きめ細やかに生徒のフォローを行っていくこととしております。 また、次期将来構想では、i d e a l スクールの要素を他地域や他校で取り入れることを検討します。御意見につきましては、今後の議論の参考とさせていただきます。	第 4 章	3 多様な学びの在り方 (1) i d e a l スクール ○ 生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心の i d e a l スクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チューター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。 ○ i d e a l スクールの取組の要素を他校でも取り入れ、生徒がそれぞれの生活・学習スタイルに応じて安心して学べるよう、学習や学校生活適応への支援の充実を図ります。
	○ オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張			
8	郡部に所在する進学校では、定員割れが常態化してるので、定員をぐっと減らして、少数精鋭にして中部地区の進学系高校に対抗できるように、きめ細かい教育をしていくべき。宮城県は良くも悪くも仙台市一極集中になっているので、もっと郡部にも目を配った都市部では出来ない教育にシフトして欲しい。例えば特別支援学校みたいに先生を多めに配置したり、学習ボランティアみたいにして、低予算でも特別支援学校に負けない郡部ならではの教育をして欲しい。何でもかんでも仙台市を中心にし過ぎているように思う。	県内すべての地域で生徒の進路希望に対応できる教育環境を整備することが必要であると考えており、地域の特色や多様な地域資源を教育に取り入れた探究的な学びの深化を推進するとともに、進学力の点では、圏域ごとに高い学力と探究力を身に付けることを目指す拠点校等を配置し、進学意識の高い生徒のための教育課程の充実など、希望進路の実現に向けた学習環境を整備していく必要があると考えております。 また、オンラインの効果的な活用により、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携した相互交流等を通じ、進学意欲の高い生徒同士が、地元にいながらにして、切磋琢磨しながら主体的に学び、進路実現に向けた力を育むことができるよう、学習環境を整備していくことも重要であると考えております。御意見につきましては、今後の議論の参考とさせていただきます。	第 4 章	5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張 (1) 学校間の相互配信によるオンライン授業等 ○ オンラインの効果的な活用などにより、ピアグループを形成し、他の拠点校や中部地区の進学系高校と連携して、相互に配信する授業・課外講習等をピアグループの生徒が受講するほか、共通のテーマで協働して探究活動に取り組むなど、自分の学校だけでは成し得ない充実した学習環境を整備します。（再掲「2 時代のニーズに対応した高校の魅力化（1）普通科系の学び」） ○ オンラインを活用した学校間の連携により、探究学習や専門高校における学びの成果の共有を図るなどの学習機会を提供することを通じて、多様な生徒との交流や対話的な学びの機会の充実を図ります。
	○ 持続可能な学校教育の推進－教育環境の充実			
9	校舎の改築が中部地区の進学系高校以外進んでおらず、一部の高校だけ差別的に取り扱っている。中堅校や課題集中校も随時建て替えを検討すべき。中学生が学校説明会に行って、○○高校はトイレが臭いと言うところを数校聞きます。いくら掃除しても、築が古くて臭気がこびりついているところも少なくないので検討すべき。特に市街地に近い丘陵地に所在する高校は場所柄高低差もあり、仙台市最古の校舎なので、早急に検討して欲しい。	将来構想を推進していく上で、再構築後の学びに必要な教育環境の充実を図っていくこととしておりますので、御意見として伺います。	第 5 章	2 持続可能な学校教育の推進 (5) 教育環境の充実 ○ 生徒が安心して学ぶことができるよう、教員を的確に配置するとともに、校舎・実施設等の計画的な整備や、学習内容・教育手法の変化に対応した設備の導入など、再構築後の学びに必要な教育環境の充実を図ります。
	○ 入学者選抜の在り方			
10	入試制度について、現行の入試制度に関して、内申制度自体が女子優位に出来ており、男子が不利に働いている。もっと男子を公平な視点で評価するようなジャッジが出来る制度に変えるべき。	入学者選抜は、中学校における学習活動を記載いただいた調査書と、学力検査等の結果を用いて選抜を行っており、中学校で作成している調査書については、公正・公平に評価されているものと認識しておりますので、御意見として伺います。	第 5 章	3 入学者選抜の在り方 ○ 高校教育の創造的再構築の実現に向けては、入学者選抜についても、各学校の特色に応じ、生徒の多様な資質・能力を多面的にとらえることができるよう、全国募集の拡充、多様な人材を受け入れることが可能となる選抜制度など、選抜方法等について総合的に検討する必要があります。